

創部 90年に記す

中 44 期 楠本 脩

水泳部は、阿部幸作さん(中 25 期)らが最上級生になる直前、大正 11 年、1922 年の 3 月、斎藤兼吉先生に浜寺の海岸でクロールの教えを受け、競泳をやろうと決心したことに始まる。この革創時代の話は、桃陰水泳倶楽部(以下倶楽部と路称)の 40 年、50 年、70 年の記念謡に詳しいのでここでは改めてふれないが、まとめて「草創時代を語る或は記す」として別途残すべきと考える。斎藤兼吉先生については、50 年記念誌 15 頁、豊田治助さん〈中 25 期〉の一文「斎藤兼吉先生の功績」が一番詳しい。ご参照頂ければ幸いである。さて、ここでは、母校創立から阿部さんらの水泳部が生れるまでの学校の水泳と、プールが始めて造られた時大変お世話になった当時茨本中学の教諭であられた杉本傳先生について記したい。

平成 8 年、1996 年、母校天王寺高等学校は創立 100 年を迎え、秋 11 月、記念誌“桃陰百年”(以下では百年史と書かせて頂く)を発刊した。まことに立派な出来で、編集にたずさわられた委員の各位には深甚の謝意を捧げたい。百年史 49 頁によれば、母校は日清戦争の勝利を記念する事業の一つとして、明治 29 年、1896 年 2 月 1 日、大阪府第五尋常申学校として設置が決定され発足した。また 32 頁には、“この年の 4 月、アテネで第 1 回のオリンピックが開かれ、6 月 15 日には三陸地震津波があり、死者 2 万 7 千 122 名”とある。改めて忘れることのできないえらい年でした。また 8 月 1 日水泳科開始(淀川)と記されている。水泳科目は勿論泳ぎの訓練であつたが、創学早々組みこまれ且は 59 頁によれば 7 月 1 日から 9 月 10 日の 72 日の中、41 日間実施したとあり、力が入っていた。明治 38 年、1905 年までは天満橋の上流で、それ以降は堺の海岸(現在堺市大浜公園の近辺)で行なわれてきた。古来泳ぎは武芸としても必要なものとされ、各地で各流が編み出され定着してきた。西には開祖藤堂藩

熊野灘九鬼水軍の観海流、紀伊の野島流、瀬戸内村上水軍の能島流、東には、鹿島灘の水府流などがあり、前述豊田治助さんの記述(14 頁「遠泳五里」)によれば、当時の訓練は観海流であつたらしい。泳力の達成度は遠泳によって計られた。淀川では天満橋から越中橋まで 28 町(約 3km、百年史 69 頁、越中橋は天満橋より下流、ロイヤルホテルの南側辺り土佐堀側に今もかかる人道橋)、海では、25、50、100 町、3 里半、5 里とあつたらしい(百年史 111 頁、1 町は約 109m、1 里は約 3.9km)。この海の遠泳については、豊田さんの記述に詳しい。この訓練は当初は最上級生までであつたらしいが、私が入学した昭和 12 年頃は、一年生のみで、期間は 10 日間ぐらいでした。場所は浜幸海岸(現在の羽衣近辺)、当時はまこと白砂青松、遠浅の美しい海辺であつた。

以上のように母校では創学以来水泳訓練が力をいれて行なわれ、校友会にも当初より水泳部というのがあつた。これは助教の集りであつたか? 夏の水泳訓練には既に諸流で一定以上の資格を得ている者或いは五墨の遠泳を突破した者は助教として訓練の指導役を仰せつかつていた。阿部さん達はこれと区別するため、水上競技部或は競泳部を名乗られた。百年史 136、137 頁には、大正 10 年 1921 年 3 月、斎藤兼吉先生着任、近代水泳を指導。大正 11 年 1922 年 4 月、水泳部内に水上競技部創設とあり、また 176、177 頁には水上競技部の評定について紹介文あり、大正 11 年 7 月 27 日水泳訓練の最終日水泳大会を行い遊泳型披露のあと競泳を行なう、8 月 13 日全国中等学校競泳大会(浜寺にて)に 6 名の選手を送るとある。阿部さんらが、豊田さんの先導で浜寺海岸近くにお住いの斎藤先生を訪ね浜寺の海でクロールの直伝を受けら

れて半年足らずのことであつた。この全国大会は大阪毎日新聞社(毎日新聞の前身)が主催し大正3年から15年まで続けられたようであるが、板木でかこつた水溜めに川の水を導入するプール(当時はタンクと呼ばれていた)を持ち、そこで組織的な練習を重ねていた茨木中学(現茨木高校)が強く、大正11年の大会では、全種目で優勝をさらうと百年史177頁には書かれている。

この茨木中学の水泳を育て造りあげられたのは、杉本傳先生である。母校は大正13年、1924年昭和天皇ご成婚記念事業としてプールを造るが、他案もあり、傳先生の薦めでプールを造ることが決まつたようである。更には設計の詳細など建設の核心部分につき傳先生にはお世話になつた。建設の経過については、百年史184-7頁「プール新設」に詳しいので其方をご参照頂きたいが、我々倶楽部員一同は杉本傳先生の熱いご支援を忘れてはならない。以下に茨木高校百年史(創立明治28年、四中である。ちなみに一中は北野、二中は堺現三国丘、三中は八尾)509頁より傳先生のご履歴を抜粋記載させていただき、先生を偲びたい。

杉本先生のご履歴

先生は明治 22 年大阪で生を受けられ、茨木中学、日本体育大学の前身日本体育会体操学校を卒業され、44 年茨木中学に赴任された。始めは柔道なども教えておられたが、大正 4 年頃から水泳教員としての本格的な勉強を始められようである。当時水府流が一番盛んであつた房総半島へ二夏にわたつて出張、翌 6 年には東京芝浦での極東オリンピックを見学、8 年水泳 5 ヶ年計画を立て競泳研究特別班を組織された。茨木中学にタンクが造られたはこの頃か。9 年伊豆戸田での東京帝大主催の全国競泳大会に 5 選手を率い、初参加で優勝。10 年上海極東オリンピック水泳コーチ、13 年パリオリンピック水泳コーチ、昭和 3 年アムステルダム水泳飛込コーチ、7 年ロサンゼルス飛込コーナ、女子水泳監督を歴任。

茨木中学を最終的に離れられたのは18年、先生55歳であられた。あと天理短期大学の教授などを勤められ、昭和54年91歳で亡くなられた。改めてご冥福をお祈り申上げたい。なお大正9年11月には、アントワープオリンピックに出場の斎藤兼吉、内田正練2選手の報告会を競泳研究特別班員と共に聞かれた由、翌10年3月斎藤先生は天王寺に着任される。先生の着任で天王寺の水泳は一段と盛んになつた。こういう事情が傳先生をして、ご成婚記念事業はプールを造るまたとないチャンスであると判断させ、熱いご支援を頂くことになつたのではないかと、これは私の勝手な想像であるが、お蔭で立派なプールができました。倶楽部の会員共々深い謝意を捧げたい。傳先生有難う。

